

(背景、ねらい、成果の要約)

- 小菊の需要の高まりを背景として、平成23年に「西海の小菊組合」を設立。
- 産地の拡大のため、新規栽培者の確保や既存生産者の規模拡大が必要。
- 小菊に取り組みやすい体制を構築、省力機器の導入・農福連携活用支援等により栽培を推進
- その結果、新規栽培者10名の確保等により栽培面積は3.4haまで拡大。小菊移植機も導入され、今後の規模拡大に期待。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 小菊栽培面積の拡大

■平成27年の1.4haから令和元年度は3.4haまで拡大

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
面積(ha)	1.4	1.6	2.3	2.9	3.4
部会員数(人)	7	9	9	15	15
うち鹿町(人)	—	—	—	4	4

※休部2名あり

2 新規栽培者を確保

■小菊に取り組みやすい体制構築により新規栽培者を10名確保

- ・他部門からの転換 3名
- ・花き他品目からの転換 6名
- ・他産業からの新規就農者 1名



平成27年～

- 取り組みやすい体制を構築して栽培推進
- ・産地に協力を依頼し、農業士、普及協力委員による現地視察対応
- ・新規栽培への苗の提供



平成30年～

- 農福連携支援
- ・規模拡大志向農家に対し、労力不足解消のためマッチングを支援



平成30年～

- 省力機器導入支援
- ・新規栽培者とリタイア生産者とのマッチングを支援し、自動選別機を導入。
- ・小菊移植機の実証・導入支援。

普及指導員だからできたこと

3 小菊移植機の導入

■補助事業を活用して小菊移植機を導入



- ・日ごろから生産者や関係機関と十分連携することで、労力不足改善のニーズをつかみ、**省力機械等新技術の導入につなげることができた。**
- ・担い手や経営等、他の専門も含めての多方面からの支援で**新規就農者を定着させることができた。**